



◆ 順調な航海

12月6日にフリーマントルを出港後、極めて順調な航海が続く。14日より西進を始め、5日連続で1時間ずつ時刻が遅れ、19日には日本と時差が6時間になる。南極圏（南緯66.6°以南）に入ったのが21日、同時に定着氷海に達しラミング（砕氷行動）開始。困難を極めるかと思いきや、氷が薄く、あっさりとヘリ離艦ポイントに到達。弁天島の向こうにかすかに昭和基地のアンテナドームを確認。昭和基地入りを前に、髪を短く切る。気象担当の松元隊員に「高倉健カット」をお願いするも、「中身が・・・」とつれない返事。33年ぶりの短髪に「思った以上にイケてるかも」と自己満足。22日、基地に持参する私物（中段1個）をまとめる。57次隊揃ってのしらせ最後のMTG。自衛隊員の方々と懇親会。23日午前、ヘリ離艦練習を見学。ダウン・ウォッシュのすごさに仰天。そして、いよいよ午後昭和基地入りです。



ラミングを見守る隊員



船に驚き逃げ惑うアデリーペンギン



まるでナメクジ・・・カニクイアザラシ

2015.12.21.

◆ JARE57 隊員紹介

永川 圭介 (25) 夏隊同行者 氷海航行試験担当 東京都出身
 東京大学大学院 新領域創成科学研究科

高校卒業後、1年間の浪人生活を経て東京大学理科I類に進学。流体力学を専門としている。「流れは可視化すると美しい」ところに魅力を感じている。海氷は固体だが、大きなスパンで見ると流れとして見える。コンピュータシミュレーションで海氷の予測に取り組んでいる。所属研究室が北極海航路の研究に取り組んでおり、船の改善につながる観点から現場でデータを取れという命を受け、今回の派遣となった。氷海域でしらせの揺れや加速度を計測するほか、ラミング時の進行の違いを海水温度、船の出力など様々な観点から探りたいと考えている。南極では美しい氷河や野鳥を見たい。皆さんには「しっかり勉強しましょう」との言葉を頂きました。剣道三段の腕前です。



第二夏宿舎にて

◆ 海底圧力計投入

12月20日。海底圧力計の投入が実施されました。水深、約5000mの海底で、2年間に渡り圧力測定を行います。圧力=水量であり、その変動を解析することで、潮汐や年々変動、温暖化による海水面の上昇、しらせ氷河の融解の影響などの解明を目指します。2年後のJARE59で回収予定。2年間に渡って、刻々と深海でデータを蓄積します。2年後の無事な回収を祈って、隊員が願いを圧力計に記しました。私も



圧力計の投入



思いを書く武田隊員

「プレッシャーに負けるなヨ!! JARE57 新居浜西高」と書かせていただきました。もちろん、受験生の皆さんへの応援メッセージでもあります。どちらも最後まで耐え忍んでください。ちなみに、温暖化による海面上昇への南極の関与は、現在のところ1mmあるかないかとのこと。温暖化の影響は、まだ南極へは及んでいません。

